

# 唐土訓象圖彙

自十三至十四

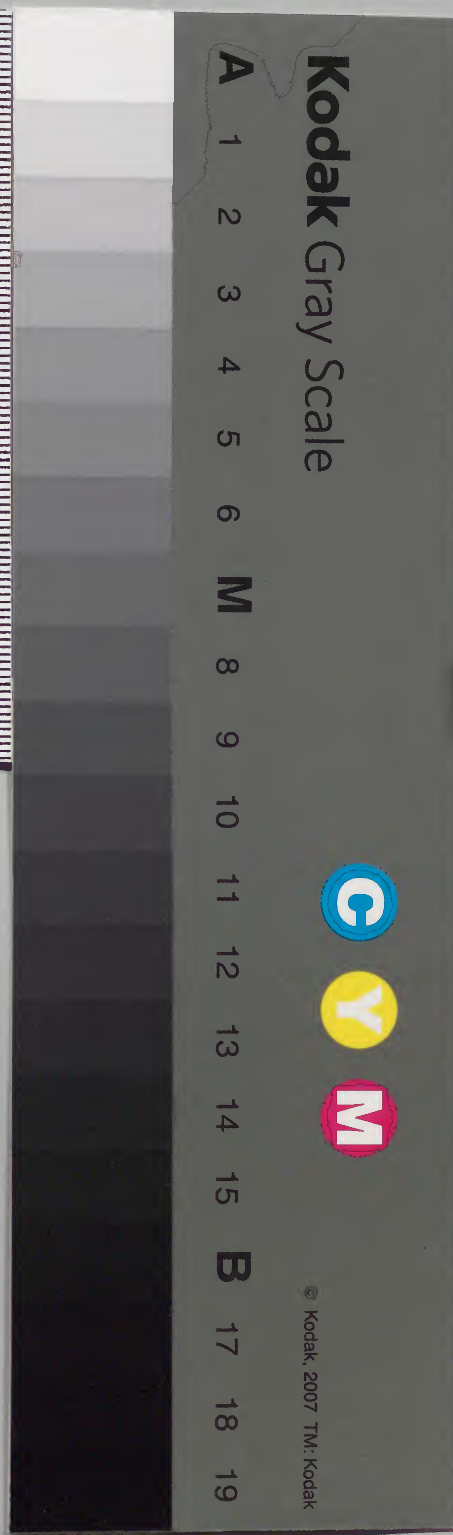
農商務省  
圖書  
第 〇 〇 〇 〇 號  
共 五 冊

大政官文庫			
		二	和
		二	書
五	七	九	八
冊	架	函	號
		九	門

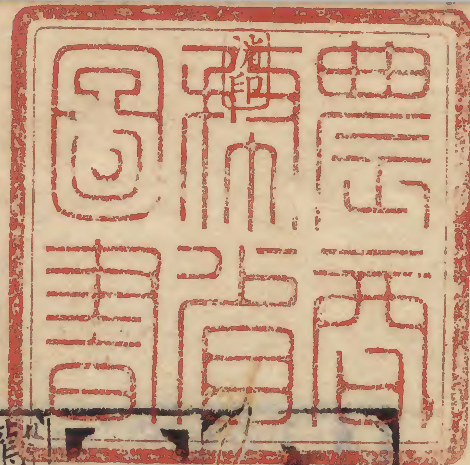
內閣文庫			
		一	和
		一	書
一	四	九	
函	二	九	類
二	三	九	
架	冊	號	

內閣文庫			
番號	和	11299	
冊數		5	( 5 )
函號		184	361

典故







唐土訓蒙園彙卷之十二

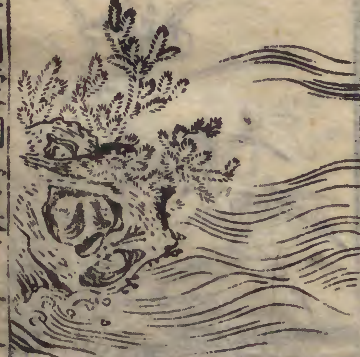
草木

此部ハ水草毒濕雜苞灌果寓  
喬之艸木のそとに

艸木  
之下

龍鬚須菜 海中  
石子生して縷乃  
水と洗つて白く  
此部ハ水草毒濕雜苞灌果寓  
喬之艸木のそとに

和名モラン  
和名リク



澤瀉 浅草の中に生  
葉牛の舌なり  
花黄色なり  
世依無尾艸と云  
大藕兒 根ハ  
サ藕の如うて小  
煮熟して食ハ  
枝葉食ハ



唐土訓蒙園彙



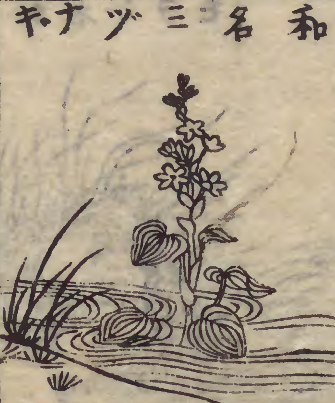
燕子花 水沢

燕子花は水沢に生れ花は紫と白とあり又花の似たりといへ燕子花は和名カキツバタ



浮菖蒲 夏

浮菖蒲は夏に生れ六月に花を咲かせしるし一舟の泡に似たり一舟の泡に似たり一舟の泡に似たり



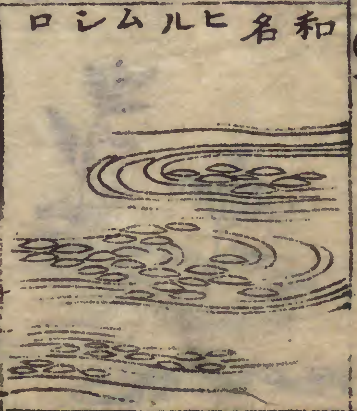
牛尾温 深水

牛尾温は深水の中に生れ葉は髪に似たり冬月魚と和して煮ると夏秋に生れ



眼子菜 六七

眼子菜は水沢の月に生れ葉は赤く北月葉は柔滑にして細長にあり湯に漬けて乾し醬に拌して生れ



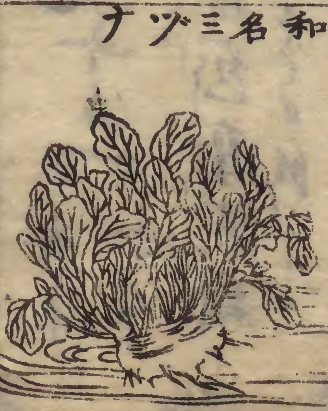
燈臺草 二月

燈臺草は二月に生れ葉は細く香油板に炒て生れ



水菜 秋水

水菜は秋水に生れ狀は白菜に似たり香油板に炒て生れ



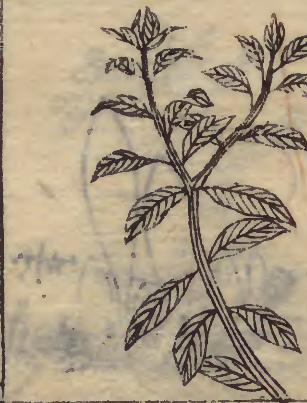
我鳥兒腸 地

我鳥兒腸は地中に生れ葉は長尺多し葉は葉生れ葉同分て枝と生れ白く花と用く苗葉食へ



地火兒 苗

地火兒は苗の高二尺餘葉方に四枝あり葉薄き花は似て微長苗根とも生れ



碎米薺 田

碎米薺は田に生れ葉は多し葉は似たりひくく白むらさきつて小葉のりくわきひくく葉と合して食へ人



首苜蓿 二月

首苜蓿は二月に生れ葉は数寸葉夏及び秋に入て細黄く花と用く小莢と結て實あり



蕺菜 山隠

蕺菜は山隠の湿地に生れ葉は蔓生にして葉は赤紫色葉乃形喬木多の形



糖牛兒 田野

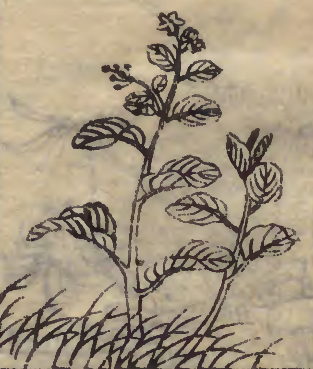
糖牛兒は田野の中に生れ葉は細弱く葉は似たり五瓣の小葉むらさきの葉葉と結て實あり





生凡菜 苗長

一丈許と云ん  
二三寸夏の家  
白花と用く細  
実と併ふ其味  
生凡の氣か



磨孤草 一名猪

法本と云中 二種  
菜油と云く時を  
菰と云は形ハ大  
小極あり  
一名肉草 又難



雷聲菌 夏秋

雷の後の後  
中に生は磨  
のく味も亦  
な



大黃 春初

苗と生は花麻  
と似て根ハ芋乃  
四月末  
花と用く一種羊  
蹄大黃あり



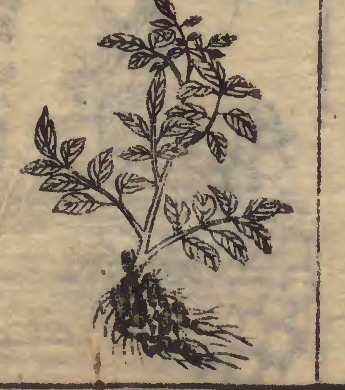
附子 烏頭

天雄附子 側子  
四品都てこれ一  
種苗の高三四尺  
以来莖四稜葉  
艾の如く紫碧  
色なり



牙子 昂

狼牙 苗地合  
に似てくわつ大  
二稜綠色根黒  
く獸の歯牙  
の如く故に



狼毒 苗長

高陸及大茨に  
似り莖の上り  
毛あり四月末  
いらく八月末  
と終す



葭若子 苗長

高三三尺葉池茨  
に似り四月花  
と用く葉色あり  
莖に白毛あり  
五月末と終す



烟草 一名

相思草 又淡婆  
名と云つ 朝鮮  
人南草と名つ  
煙花烟酒擔  
不帰と云ふ



茵芋 苗長

一丈三四尺莖  
赤系石榴  
似て種く厚く又  
石楠に似り四月  
細葉と用くこ  
大戟 春お



大戟 春お

芽と生し長くて  
叢と云はる一  
入くう葉初生  
の柳に似り三  
四月末と終す  
いらく



續隨子 苗ハ

大戟の如く花を  
まゝ大戟と云ふ  
葉中に葉と  
抽てて実と云ふ  
実多しあり



和名タバコ



鬼臼 一葉ハ

葛麻に似て初  
莖と生け茎陽の  
一葉二兩岐あつて  
年一に一莖とま  
莖枯て一莖とま  
花赤き莖とま



蚤休 苗葉

王孫鬼臼に似たり  
六月莖葉赤むと  
用く莖葉赤黄色  
上金線わらうく  
下金線わらうく



海芋 苗と

生て高四五尺  
大葉芋の如く莖  
と抽てむと用く  
辨運むの如く密  
色く 大毒有り



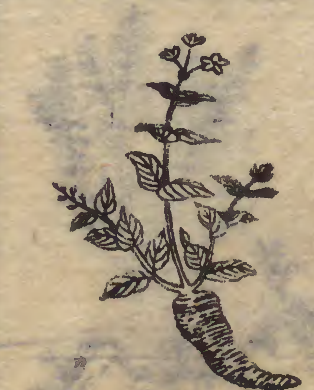
防葵 葉ハ

莖に似て莖とに  
三葉一本の莖  
わりの中に一幹有  
其莖は花と用  
て葱の如く白



蘭 苗葉

大戟に似て花美  
色根蘿蔔の  
如く皮葉肉白  
初時汁は  
膿て漆の如く



坐墊草 六月

紫花と白  
実と花其苗  
とすりてお瘰  
の傷と治り



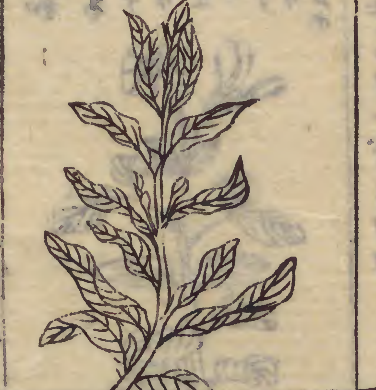
土紅山 高

七八尺葉枇杷  
に似て毛片  
秋白た生け  
粟粒の如く



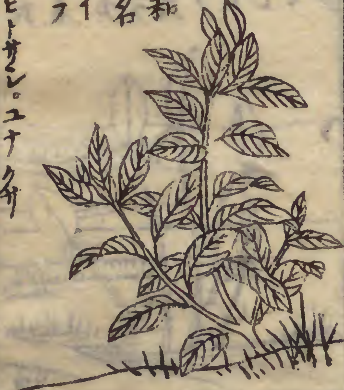
攀倒甌 莖

春夏葉の如く  
研搗て冷み  
に似て毛片  
癩の如く熱  
盛に煩渴と治



藜藜 花の

毒と解け  
いし大毒あり  
人後下れ  
吐利やま



水茸草 春苗

と生け莖葉月色  
葉楊柳の如く  
水際生けむ  
月十月八



甘遂 苗ハ

澤漆に似て莖  
短小して葉に  
汁わり根皮赤  
く肉白又草  
甘遂わり苗葉  
葛麻の如く



羌活 二月

皮層を擦り赤  
腫に大毒あり





半夏 二月

苗と生一茎一  
葉三葉淺綠色  
頗つ竹葉の似  
光り一種羊  
眼半夏あり

曼陀羅 高二

三尺 綠莖碧葉  
八月白花 開く  
狀牽牛の似  
大い實と結て  
圓なり

劉寄奴

蒲公英のこゝを  
かり二種柳葉  
のくわらあり以葉  
を以てそのけい  
畫具の生脂肪と除  
くまよく血をひ



瓊田草 春苗

葉と生一花  
三月根葉  
とより月の福  
の土人風病を  
治れ

雞項草

紅花の如く葉  
刺あり根小  
蘿蔔に似く  
枝條直にのわ  
三四月実を  
生れ

野蘭根

生して高さ二  
尺より四時葉  
あり花を  
その根と



半天回 春苗

上生は高二尺餘  
赤斑色冬  
至て苗葉を  
枯る夏月  
これと

兔兒傘

のみに生れその  
苗二三八人  
莖を出て  
生れ傘蓋の状  
乃とくは淡白

蘭蒿

二尺餘莖幹  
似く葉細長  
鋸齒し葉莖  
と布に生れ苗  
葉も食へ



半邊山 葉

苦蕒に似厚  
根白木に似  
軟なり二八九  
月一ねと

小兒群

生高二尺より  
春夏生長して  
花を冬枯  
其根と用

菩薩州

近京にあり一  
名尺二と名  
其汁との  
研てつる





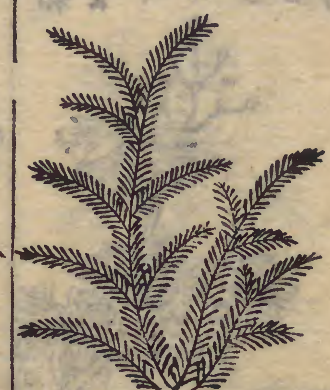
野落籬 二三

月之類葉より  
湯に煮て過  
し塩醋を和  
すらる



百乳草 莖

葉俱にまろく  
松葉の如く  
かく三月に苗と  
生し四月に長  
く



建水州 枝葉

蒸に似て四時常  
にあり 福列  
出つ土人葉  
より倍乾す  
かき用也



催風使 天台

山中に生け苗  
葉冬夏常に  
まろし其葉と  
し草入



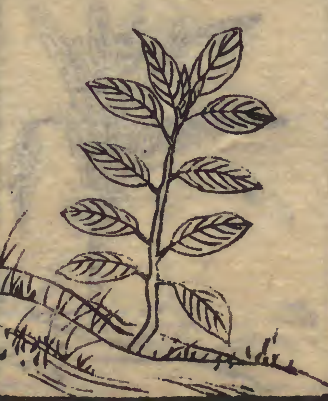
蕪藍 二月

苗と生し葉初  
出せ梭心より  
莖ハ葱に似て白  
青色上に皮  
わり裏の莖橙  
皮に死ハ赤色し



百藥祖 天台

山中に生け苗  
葉冬夏ついに  
青し土人その  
葉と冬より



露筋草 春苗

と生し隨て  
と開き子と結ぶ  
四時開す其  
子紫色とより  
時を



獨脚仙 春苗

と生し秋冬よ  
至て葉落つ其  
葉圓し土人青  
下葉其脚四  
五寸夏根葉と



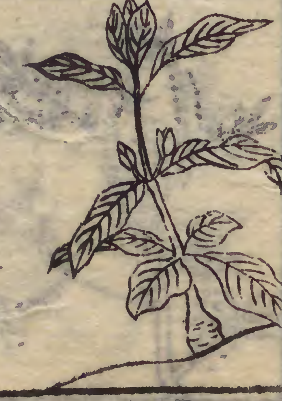
石道遥 冬夏

常よりわら花  
実も亦多し其  
常州より  
しるに



大木皮 其高

下大小定ら  
四時葉わら  
花を其皮  
と用也



百兩金 苗

高三三入幹わ  
て木乃加冬凋  
まら葉能面俱  
にまら花実と  
結て後背涼  
花碧色実紫



烏藍 鳥ハ

大なり村人大  
と嗜す鳥とん  
此菜但宜く  
熟食す





都管草 苗生

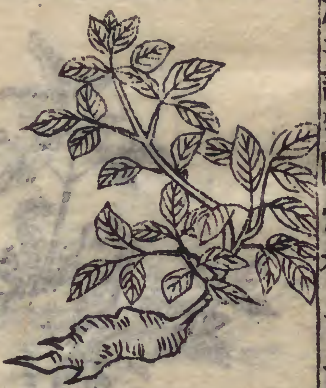
七二入る葉  
玉當飯に似て根  
恙活に似たり  
八月二根とら

黄燎帚 天台

山中に生れ苗  
葉冬夏常に  
青し土人其根  
とてし薬入り  
入

黄花了 春

三月葉と生し  
三月に至てむ  
あり 棘菜花  
に似く黄色  
秋実と信ふ



刺虎 葉

冬と凌て周  
なすに時  
根葉枝幹  
しに用ひ

芥心草 蔓

生して白色  
根ハ黄色四月  
苗葉ととり  
もちめ

苦介子 苗の

高一尺より枝  
葉葉青色  
葉柳の  
白花と用て  
葉に似たり乃  
子ハ黒色なり



無心草 三月

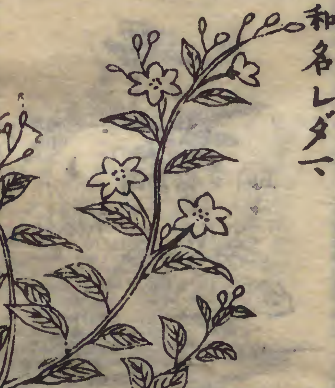
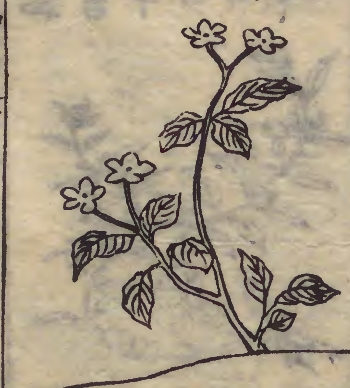
花と開き五月  
実とむす六  
七月は根と  
とりし

茆質派 葉

赤く花白し七  
月より信弱  
の土人とり  
風腫と治れ

鷹爪 花葉

色赤く花白し  
柳に似たり  
柳に樹ハ連葉  
に似たり小樹  
む用て香し



布里州 葉の

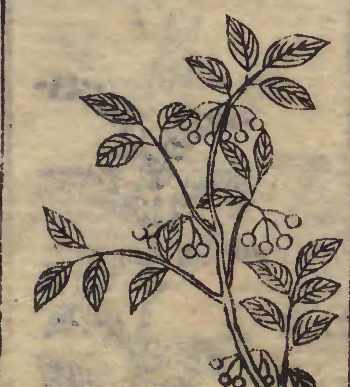
高三四尺葉ハ  
杏に似て大  
夏に花さる  
して

紫金牛 葉ハ

茶の如く上緑に  
下紫し實ハ圓く  
紅して丹朱  
のし根ハ微  
紫色し

子午花 一名

葉落金錢を  
赤く夏に入  
開く必日午  
に開く





胡蘆州 枝葉

小蘆に似る。花紫  
一枝七葉。花三  
出。苗之れく  
搗て飲茶。同  
煎。一丸と云

甘藷兒 人家

園中多うの  
葉。花紫。根  
之。毛あり  
根。附子と云

石棗兒 野圃

多く。葉紫。花  
紫。根。水仙の  
て。似。○氏  
類。之。根。凡

植物圖説



杜蘆山 其苗

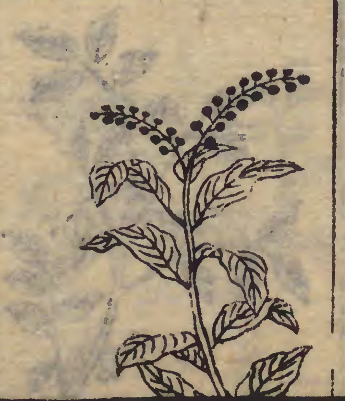
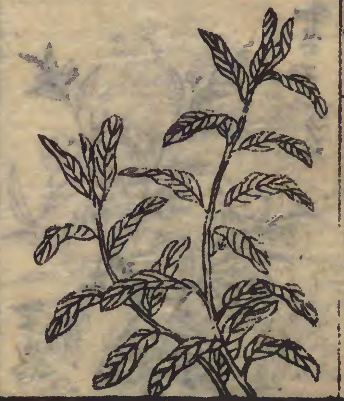
高四五尺。葉  
苦。葉に似  
り。秋。紫。花  
と。用。く。実。採。取  
の。し。く。大。なり

華澄茄 春夏

葉。と。生。し。青。滑  
葉。の。一。実。と。結  
て。梧。桐。子。に。似  
り。八。九。月。了  
り。こ

麥李花 小

一。く。葉。お。正  
麥。熟。して。實  
食。へ



望江南 高の

高。さ。二。三。人。を。り  
長。極。多。う。く  
肥。入。し。葉。む。と  
ひ。の。角。と。む  
す。三。寸。作。し

白屈菜 田畦

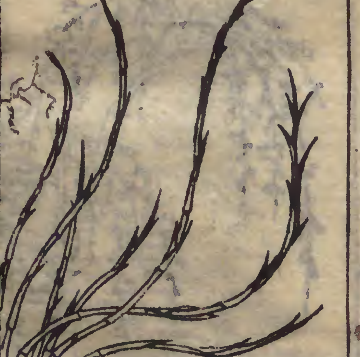
み。生。れ。苗。の。さ。さ  
一。二。尺。葉。紫。白  
色。莖。毛。刺。あり  
稍。花。と。分。ら  
葉。む。と。い。り。く  
紫。山。花。葉。子。似

科藤 蔓

樹。て。地。を。成。し。枝。葉  
の。皮。は。み。と。つ。て  
竹。皮。の。よ。く。辨。し。か  
つ。て。藤。の。長。敷。丈  
敷。代。に。れ。ぬ。数。十。里。と  
傳。へ。○。今。か。れ  
ま。細。ま。つ。つ。と。と

和名タイサカ

和名サワウ



竹蓐 竹

の。液。を。り。て。此  
よ。つ。て。生。た。鹿  
肉。の。よ。く。白。く  
ら。ま。へ。一。又。竹  
は。付。て。も。ま。ま

雷丸 竹の

竹。の。葉。を。り。て  
け。り。て。丸。の。よ。く  
圓。く。て。皮。を。く  
肉。白。く。ま。ま

夾竹桃 花

桃。の。よ。く。葉。竹  
乃。み。く。終。り。名  
は。竹。の。葉。と  
陽。起。す。と。畏。つ





迎春花 臘月

黄花と用く根  
枝上子結て生  
くはくはなり  
まをい

金絲桃 桃の

如して心工美  
髪潤りえ花介  
に浦教し  
金糸の如くこ

木香花 三種

わり黄白紫三  
色あり

香あり



イハウワ名和



和名ヒマウマ



笑靨花 木の

高四五尺くろり  
春花と用く小  
細うて粉米  
の

郁李 木乃

高五六尺枝葉  
皆李の如し惟  
子小く梅桃乃  
如く赤く味酸

錦帯花 花倍

蕾の形小は乃  
形れく色粉  
紅うて嬌なり  
是と屏に飾り  
植て玩し供に



ケカハス名和



和名ニリムメ



和名ハコチウツギ

刺桐花 葉ハ  
野薑微の如く  
茎子刺多し  
花ハ玫瑰の如  
香あり

玫瑰 花ハ

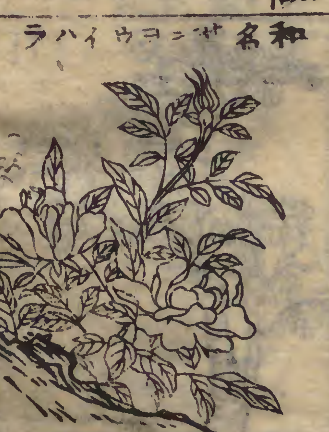
蕾微し似て枝  
刺多し花は香  
氣あり四月う  
いらく糕と名  
いなり

寶相花 蕾微

子較はこ乃赤大  
うて千瓣心  
とつき大紅と  
粉色の二程  
あり



和名  
ハニ  
ナス



和名  
コニ  
ウハイラ

茶藨花 藤  
身あり茎葉月  
刺多し花用て  
香微し清

金櫻子 葉取

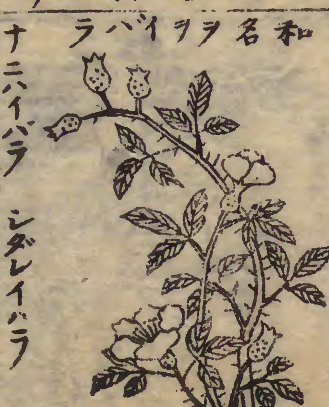
生薑微し形は  
刺あり四月白  
と用く秋子と結  
子も赤刺あり  
形は楕圓に似り

波斯菊 一名

西番菊甚と  
久しうまくと乃  
子地よつと  
昂生し根も  
とをり



和名  
キク  
キクハ  
ユマラキ



和名  
ラハ  
イラ  
ナニ  
シ  
レイ  
ハラ





木綿 樹の

大に抱く... 葉の... 細く... 白く... 布... 織る...

吉利子樹 葉ハ

野桑葉... 小く春白... 朱... 和名... 俗名...

木半夏 樹の

高六七八... 葉... 細く... 其核... 色丹...

酸棗 其木

高数丈... 二尺... 細密... 其核... 色丹...

山茱萸 木の

高丈餘... 似て... 赤色... 九月... 実を...

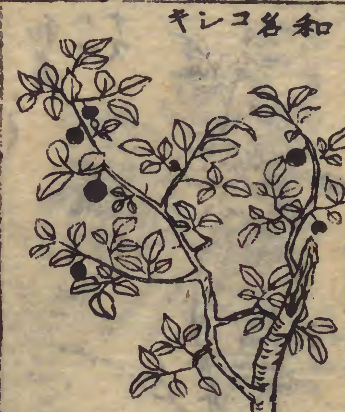
蔓荊 高

四五尺... 葉... 色... 秋子...

木綿 樹の



和名コシノキ



和名イハヒ



賣木子 株

の高五七尺... 枝と生... 長... 用く...

椿 二木

の形... 相... 實... 標...

珊瑚 葉ハ

山茶の... 木の... 子... 相...

臘梅 臘月

小... 蜜... 名... 六...

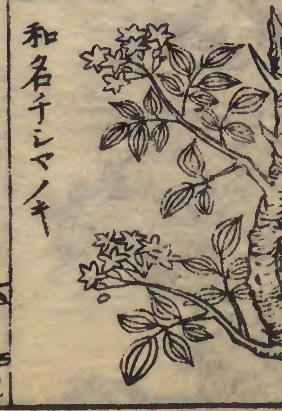
文冠花 樹の

高丈餘... 葉... 背... 花...

蜜 木の

高丈餘... 葉... 背... 花...

和名...



和名シシマノキ



和名イヌダラ



和名ウマリノコ



檉 木葉

くもろくを羽と  
まふら葉より  
うけ一実赤  
一ハ枝と萬  
年枝といふ  
の凍きの類

檉 樹

檉イハ似て葉大  
其形橘より大  
して香あり實  
久しくあま  
家園中ニハ

檉 櫛 林檎

の類あり実大  
梅ルニ木皮といふ  
みれり久し  
して代用ニハ  
功あり人の考  
とまり



和名アヲキ



和名ダイダイ



和名ハク

棠梨子 三月

花と開く白  
隨て實と結  
其味酸く  
澁ニハ

棠梨 葉

蒼木に似たり  
花白く実と結  
て小棟子の如  
くニハ

醋林子 其木

高丈樹枝條  
志ニハ三月花  
とひらく白く  
四いらニハ九月  
実とひニハ



和名タカ



無花果 山花

人家の園中  
うの長の飛葡  
葡萄ニハ似て長く硬  
く枝葉の間  
果と生れ初ハ  
熟ニハて赤子の如  
くニハ色ハ赤ニハ

龍芳切 三月

小白むとひらく  
実と熟は肉味  
於眼ニハ

櫻桃 樹ハ

春神自  
花と開くニハの如  
子とニハひニハ  
枝下類ニハ  
五世ニハに和ニハ  
すりニハの考ニハ



和名イキ



和名ニヌラ



和名ニヌラ

菴摩勒 木の

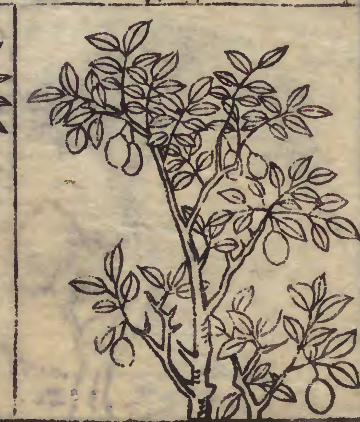
高二丈枝條甚  
軟ニハ葉ニハ細  
密朝ニハ開ニハ暮  
に飲ニハ三月花  
開て栗米のニハ

椰子 木ハ

枕棉ニハ似て高  
敷丈子木末ニハ  
わり大ニハ  
靴ニハの如く枝間  
小実ニハ

檳榔 木乃

高五七丈正直  
小ニハ枝ニハ皮  
青桐ニハ似り葉  
木ニハ生ニハ其  
實ニハとニハ





聖子桐 花葉  
 ともは樹類に  
 實の味甘くして  
 吐きひき多量植  
 注とれて利わり

波西維得 或云  
 白木といふわり注  
 といふは注よわり  
 批者云此説非下  
 今江州ニアルモ人即  
 聖子桐ナリ波羅木  
 フ本州ニテ考ルニ  
 白木ニテラス此二圖  
 ナラシムテ江州ヨリ  
 未テウエシ生レテマ  
 クレテ油ヲ出ルナリ

波西維蜜 樹の  
 高五六丈冬凋落  
 花をくまきりて枝  
 間ニ生レた冬冬臥  
 のとくまの皮は栗  
 核わり五六月熟  
 貯置三五六月肉さ  
 かりて櫛のとく無  
 とつゆ



藤黄 樹と  
 海藤と名はく  
 真臘の人刀  
 以て枝を研ぎ汁  
 をとりて乾かし  
 今畫家ニ用テ黄  
 シロクコレナリ

没薬 樹  
 樹よ似る木の  
 清液結ひひく  
 塊とられよ

盧會 波斯  
 樹よ出つ令廣  
 より来り者わり  
 其木よりしとく  
 脂涙の滴して  
 をり收まり採  
 に時丹を



血樹 木乃  
 高散大葉ハ楸  
 科ハ三角なり  
 其脂液木中  
 より流り滴膠  
 の如く久くくいて  
 凝りゆりて膏

阿細 西蕃  
 及ひ其葉よりつふ  
 或云は脂を毒を  
 二つ附し羊と狗ト  
 こりてをこらぬ  
 その脂をこつとく  
 死候と云はれ  
 今ハ度良しう製  
 菓とやして餅と  
 かりてつとくといふ

龍腦香 漆律  
 樹よいつる木中の  
 脂を松脂に似  
 杉の木れ氣を  
 たり



菌桂 葉細  
 三條文あり心葉  
 白ニ色し葉細  
 して枝把葉の如  
 かり又ま乃  
 飾り何なりとの和  
 名ラツカメ

月桂 葉桂  
 似て皮より  
 辛熱するもの  
 花も亦重しつ  
 乃後ありといふ  
 天竺桂樹ナリ

丁香 木の  
 うち大葉葉細  
 似てを調はれむ  
 葉細葉色し  
 子枝葉の上  
 に出て銀色に  
 此葉をかり





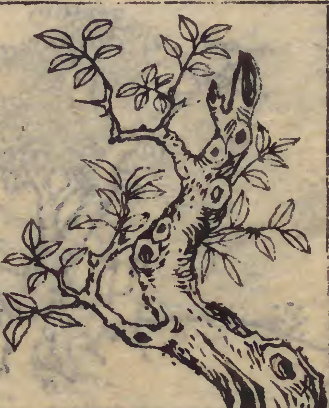
側柏ソノ

葉側ソノひよと以て  
名しん三月むと  
ひんくまをと後  
圓葉ソノ行とけり  
ものおとあつへい



沉香ソノ木に

節多く葉橘ソノ  
似ソノた白く子ハ  
檳榔ソノに似て大  
桑ソノの如く水ソノ  
沈ソノものこととん



降真香ソノ

番国ソノより出川香  
蘇方ソノ木ソノ似ソノく  
光ソノと諸香ソノと和七  
焼ソノハ鶴ソノと感  
神ソノと降ソノは



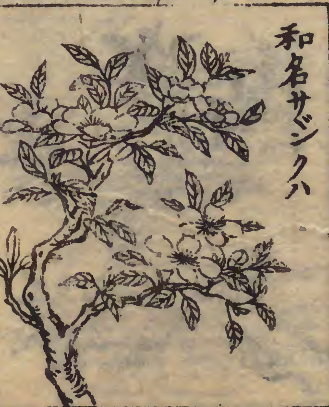
檜ソノ二種

わり一種ハ葉度  
して榛ソノに似たり凡  
小田ソノ崎ソノにて氏  
用ソノし利ソノあり



茶梅ソノ白と

粉ソノおとの二種あり  
土月ソノむく用て  
久ソノく而ソノく  
世ソノニ山茶花ソノと名  
アヤリソノ山茶花ソノ  
和ソノニツツキナリ



海桐ソノ葉ハ

手の大乃ソノ皮  
棒ソノの如く白皮に  
して堅く繩ソノと  
滑ソノりてまよ今  
桐ソノま



扶移ソノ江南

山谷ソノ生に樹大  
枝ソノ十圍ソノわり風無  
して葉ソノりみけり  
詩ソノ經ソノ唐ソノ棟  
之ソノ萃ソノあまなり



樺方木ソノ櫛ハ

樺ソノ葉ソノとむ黄  
よソノ子ソノ黒ソノ  
出人ソノ  
絳ソノ色ソノと  
淺ソノ心



杜仲ソノ木の

高ソノ数丈葉率  
葉ソノの如く皮厚ソノれ  
よソノ款ソノにソノれを  
乃ソノて内ソノの白絲  
と出ソノり



烏藥ソノ葉微

圓ソノく尖ソノて三  
葉ソノと如く面青く  
背ソノ白ソノ一五月  
黄ソノ白ソノの細むと同  
六月ソノ実ソノと倍ソノ



檉ソノ木ハ

木ソノ穂ソノは似ソノたり  
秋ソノの晩ソノに實ソノたり  
家ソノにソノ其ソノ木  
と檉ソノと作ソノて換  
魚ソノ皆ソノ浮ソノ出ソノる



楸樹ソノ木

大小ソノわり大ソノなり  
葉ソノの如く皮厚ソノれ  
葉ソノハ楸ソノ桐ソノと如く  
白ソノむとひらく  
和ソノ名ソノヒサキ





蘇木樹 樹ハ

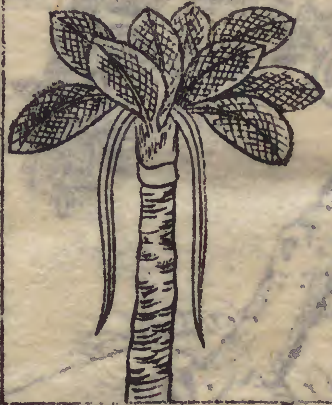
梳棉子似て葉は誰  
披ふ葉の状に似  
木皮中に白粉多  
餅とて合ふ玉  
人呼ぶ葉は細く空  
前長交趾にあり

鳥橋木 樹の

色濃黒體重堅  
織造物とみて  
まろく葉ハ多  
似たり  
性毒と解れ

樺木 樹ハ

山桃に似たり木  
小斑點あり皮厚  
して軟柔し皮匠  
家て用て鞆の裏  
とれ



相思子 樹の

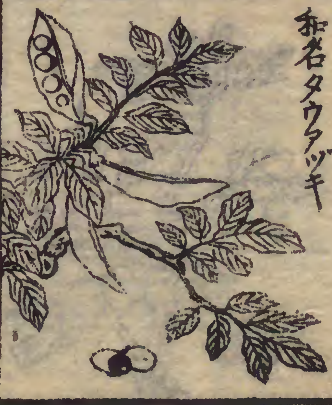
やうに大餘葉は楕  
圓して花ハ息葉  
似たり葉は細く  
子あり半截玉と  
ありこれと花  
根香と収れと乾  
り

巴豆 木の

高三丈葉楕  
圓の如く厚く  
九四月を発  
て五六月實と  
結ぶ

大風子 大橋

の子楕圓子  
よくみん圓なり  
其中に核あり數  
十枚中の仁白色  
久しとくと他を



猪苓 土乃

底に生け皮黒く  
塊となり形猪  
糞に似たり也  
名はく一名地  
鳥桃

訶梨勒 木白

く子ハ梔子  
似て葉黄色皮  
肉相若く七八月  
實熟すの  
とれ



樺 樹大

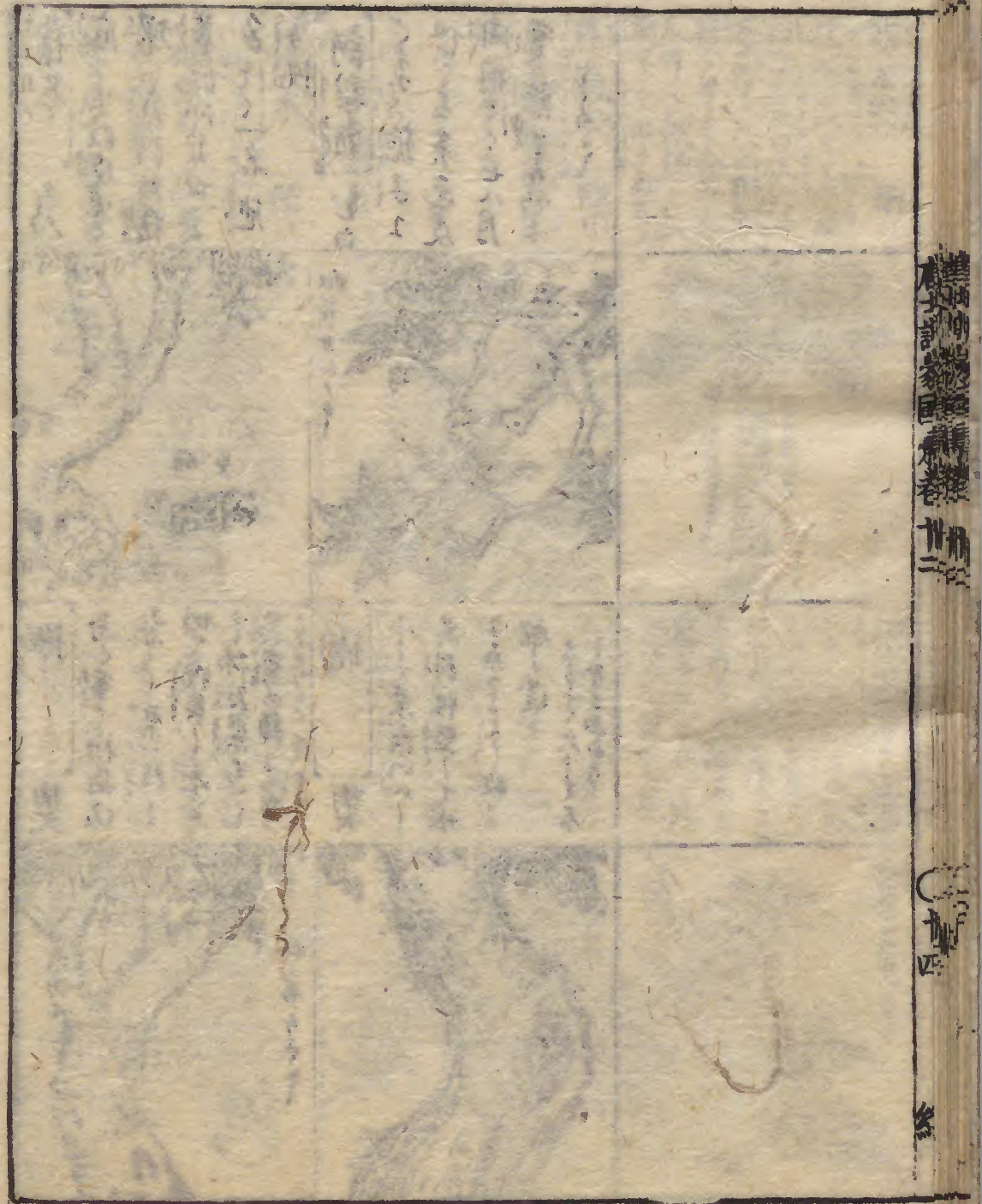
高く葉ハ柳樹の  
あやしく葉ハ楕  
圓して狭長し冬  
に枯れ葉はよく  
乾家の類はつり  
とれ

楠 樹大

小して葉桑の如  
其材性堅く水  
子舟より故に  
船に造る  
木とく久しと石  
とかりあり







唐土訓蒙圖彙卷之十三

名下  
和名

禽獸

此鳥は山川林池水原の畜するものなり

鸞鷟 此鳥多し國語は周のむらさき  
岐山よりくといへり



世樂鳥 南方より出つて五  
丹蒙赤首の冠あり王者明德あり  
天下太平なる時あり





秦吉了 形を鳥に似て毛は鷹の毛に似たり人乃の髪より細く心細く女のとく秦吉了の丈夫又一羽あり人を取の如く肉冠を人の取の如く文あり喙をく距あり



鷓鴣 一名鉄鷓 形鳥より小は七寸をこす

三月 かく農人 候より

耳 其 耳 鳥 小 歌 似 小 ぬ 言 語 交 趾 文 交 趾 文

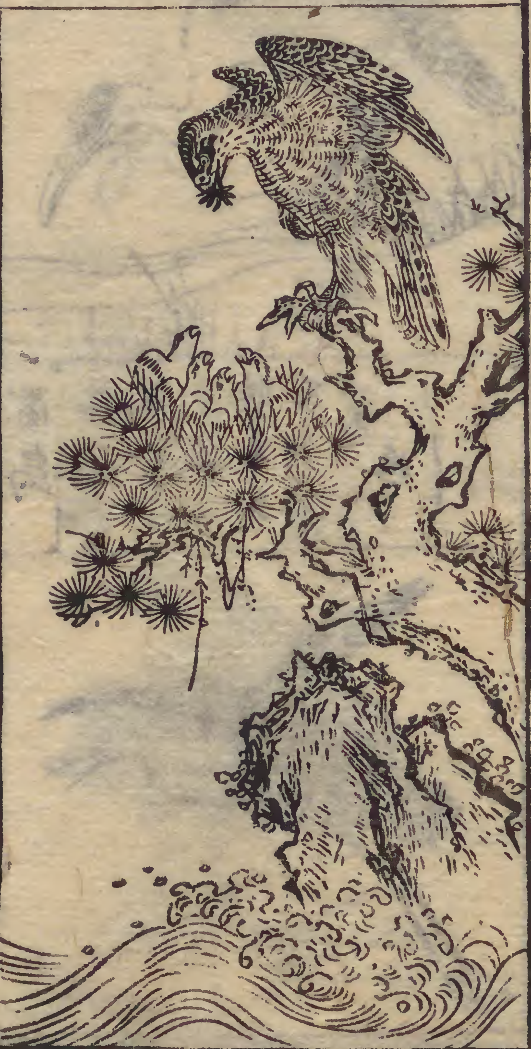


海東青

此鳥 鷹の性ありてその 名と云ふに 鷹の事 別家園 鷹の事 故に 載に

鷓鴣

此鳥 性義ありて其 鷹の性ありて其 鷹の性ありて其 鷹の性ありて其





秋鳥

一名扶老  
鶴の廣  
五六月迄  
八長頸赤  
目死項  
皆毛た  
是れ鶴の  
しくと色



鵞

水禽大  
孔雀の  
長尺俗  
口初末  
つと二  
作と入  
酒堅心  
也と  
本葉と  
黄蘗陸  
香と



乾鶴

項金色  
嘴紅  
其色ハ  
三日  
去て九  
群  
香の



陽鳥

鶴ノ似  
殊ノ小  
身黒  
頸長  
一



昆鶴

鶴ノ白  
美白色  
領長  
赤ノ九  
啾ノ啾  
鳴ノ鳴



鶺鴒

鳥の類  
田  
生



玄鶴

その色  
龍王  
わつ  
帝樂  
崑崙  
不ノ不  
飛ノ飛



旋日

大  
加  
み  
お  
日  
毛  
選  
上  
林  
賦  
の





方目と  
水鳥類  
白く自肉冠  
あり足の指  
鴉より似く  
ひろく足  
まをさし  
いさゝ大  
小なり

善高く飛  
て居る相  
そと蒼白  
なり月相  
軟をなむ  
吐て子を  
うむ



白鶺鴒  
鴉の類なり  
その色白  
形は鴨より  
つるつるい  
なり水鳥  
しひい  
なるなり  
なるなり

水鳥鴨  
鴨の類なり  
長頸赤目  
紫紺鶏  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒



鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
白く人似  
て白鶺鴒  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥



鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒



鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥  
鶺鴒鳥



鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒  
鶺鴒





鶺鴒

水鳥雁乃  
屬長頸綠  
色其羽素  
似其羽素  
一種狀如  
足短指  
非羽平



或ハ冠有  
灰之ノ角  
御朱ノ  
或ハハ非  
羽之ノ  
羽之ノ



嗽金鳥

昆明國之  
以形雀  
加色黃  
魏の明帝  
の時未  
蘇以真珠  
志徳と餌  
常に金屑  
をこく



形ハ雀  
似て尾長  
華の皮と  
羽之ノ中  
の如と食  
只月の同  
多



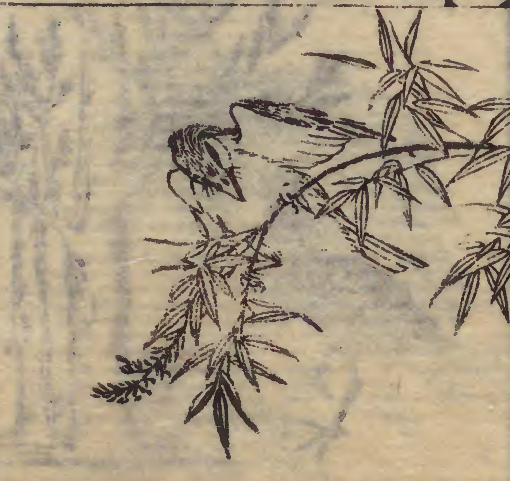
蒿雀

麻雀ノ似  
し黒色  
つノ  
の同ノ在  
故ノ名  
あり之と  
食く諸雀  
美



黄鳥

形鶴  
尾ハ大  
相ノ  
唇ノ  
尖リ脚  
日ノ  
うノ



突厥雀

大ノ  
形雌雄  
後趾  
尾ノ  
鳥ノ



繡眼兒

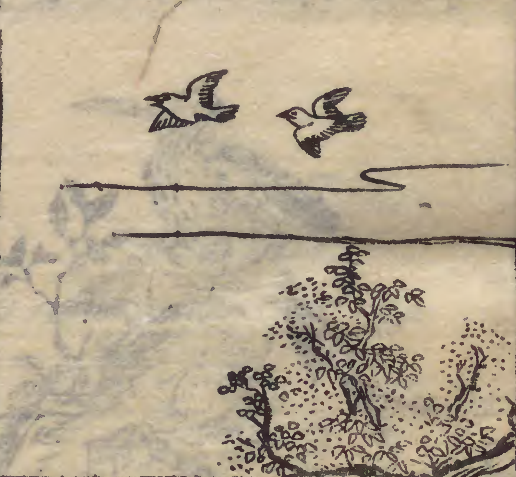
形小  
月白  
鳥ノ





鶇

此鳥七  
高く奉  
らる中  
に射候  
と云ふ  
は此鳥  
の羽を  
射候に  
由りて  
なり



正

正公  
鶇鳥小  
て飛  
して疾  
く射候  
布侯  
七  
みれ  
み



反舌

五月  
至て止  
と及易  
百鳥の  
子又百  
舌



杉鷄

杉鷄  
の如く  
は美毛  
ありて  
赤毛の  
杉樹の  
上



氏眼母

大さ鷄の如  
黒色に南  
方池澤の  
菰草の中  
に生れ其色  
人の吐く  
其色  
二  
と吐く



鶇朝

その形を  
鶇に似  
て目  
似る尾  
屈伸  
縹緲の  
あのみ  
あのみ



鳴鷄

その形鳥  
の如く  
赤色を  
りて  
赤  
一  
一



鶇

青要山  
鳥あり  
鳥の  
身  
赤尾  
と食  
子





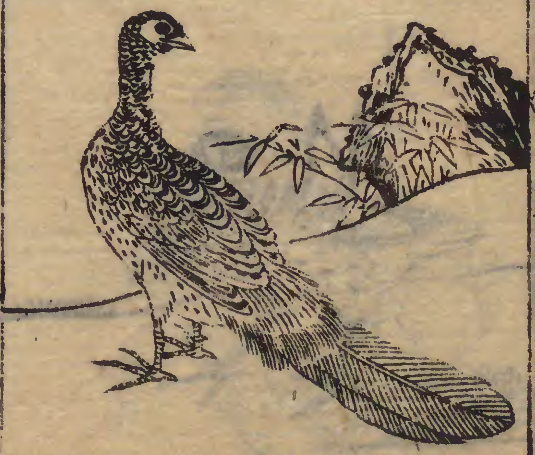
華鳥

冠青毛大  
鮮明岩巖  
洞赤雉子  
のくひ  
二章  
こまかく



當屋

そのくち  
け子のぬ  
うて尾ハ  
芭蕉に似  
たり人食  
とんハ  
目  
うら



鷓鴣

雉之類七  
大々黒色  
首々毛角々  
冠のハ  
性之堂を  
怒ること  
すんふて死  
といふ



潔鉤

そのくち  
鳥のくち  
尾ハ龍  
似たり  
な  
の  
か  
と  
う



鷓鴣

鳳之似く  
神鳥なり  
郁離子曰  
南方神鳥  
なり五彩  
の羽と  
か



精衛

神農の女  
女娃と名  
けく昔海  
に墜り溺死  
一化して粒  
衛りたり  
に西山の木石  
と收て東海  
と填るとい



鷓鴣

鷓鴣之似く  
不祥の鳥  
を魚と  
りて維  
のくち  
文家わり  
櫻山北越二  
入ルサケニ



赤月耕

そのくち  
糖のくち  
白象白首  
尾ハ度と  
樂へし  
うら





離  
 そのまら  
 のくく面  
 人うく  
 目くあり  
 めんろ  
 わた



飛簾  
 鳥うてび  
 鹿がう風  
 俗通曰飛  
 蕭神雀  
 と致れ  
 いり身こ



鶉  
 そのまら  
 鶉のくく  
 一首うて  
 三才  
 足文  
 頭  
 長



開雀如  
 そのまら  
 鶉のくく  
 三首うて  
 足長うて  
 尾  
 長



鶉  
 鳥うてび  
 天陰たわ  
 夕下車の  
 びるうわ  
 と人の魂  
 と收び首天  
 物のろく  
 満てやま  
 明ぬ人太  
 海てまら



寒鶉  
 鶉五  
 そのまら  
 の加四足  
 肉翅あり  
 月も采五  
 自ら吃風  
 もあふん  
 とくく  
 久くく  
 毛をて  
 分りて  
 且過と



浴鳥  
 大さ鳩の如  
 赤色樹と  
 穿て葉と  
 らう大さ八六  
 体入さるの  
 聖くく  
 赤白相  
 同射侯の  
 是と避る  
 わと



石燕  
 乳穴石洞  
 の中  
 狀編編  
 似く  
 石のう  
 の石  
 われ





芸窓日記一て讀耕二俣三書冊を抄して宰予と學ん  
 らん忽ら名あり桑樞と啓て入る寒暄畢て後札上の冊  
 稿と擲て関々禽神といふを巻と掩て嘆一且怪て日  
 今此圖の如ふいづらお人論ありて未だ周既二存後  
 多々多々多々れ亦彼大鵬のこゝに壯周既二存後  
 王折探て圖今出さる載さるの遠志一はあやや  
 将疑しよと関ら清う身後と関んとて予佛也とい  
 曰名何必大鵬といふや夫鸞鳥族の禽中と靈秀不  
 して聖代よ出て岐山よかく群言人の中二聖賢をさし  
 大鵬の禽中の怪物よ海よ出て九天と凌ぐ於人中可有  
 壯老とさうふ一は流皆士女誕其唐たり故今奪と  
 屏を疑とと関く惟この質の知やんくして未だ圖をさるか  
 ともとの世の希有よ一て関を此物と誤りてさるに  
 是も亦格物窮理の一助なりとの況又王折も知く  
 圖すれしわんを説も亦軒渠すへくといふはさる  
 かりとくくしてとる予後書と後て日の西するとと不知

鹿

此畜有り信て七礼一應は  
 の顔赤き目五の蹄仁と合義  
 と懐き音鐘呂一中行規知りあり

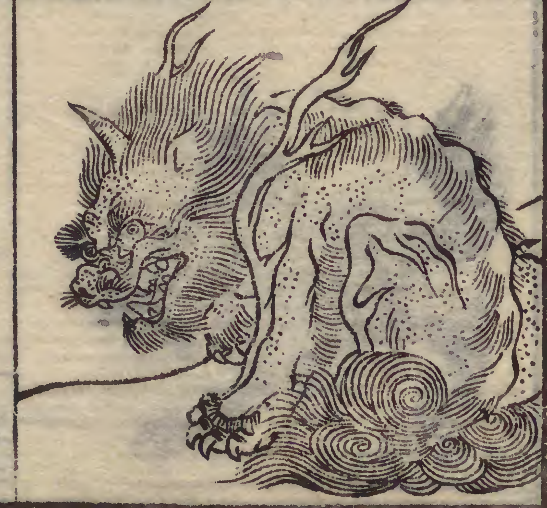


龍馬  
 馬八人のと龍を昔伏羲の所り  
 黄河より流るゆを背に旋もわ  
 下らふに伏義を八卦と畫し  
 ともいふの何圖の也なり



白澤

東望山は  
 獸の能言  
 王者徳幽遠と  
 照以時に至る  
 黃帝巡狩  
 東海の時  
 此獸言讀  
 果然



仁獸也後より  
 本も体三  
 するは鼻孔  
 天よむと  
 附木上を  
 尾を真とふ  
 うくも毛長  
 柔く白黒文  
 天子衣衣十  
 二緯あり宗  
 宗養られし



書上明鏡圖卷下



金狻  
形獅の如く  
その性史烟  
とこのい故  
香好の蓋  
乃上とまつ  
世に獅子の  
香好といふ  
わきまあり  
狻なり



三角獸  
西凸山イ  
三角獸あり  
すれり  
瑞獸なり  
先王法度  
脩明なる  
時いれ



類  
狀ハ獬の  
髪あり  
此は  
牝牡と  
是とら  
はまは  
始まは



角端獸  
東山二角  
獸あり瑞物  
なり六合天  
下同く太  
平なれし  
わきまの  
の時あり



檮杌

獸の至て  
悪者之類  
と好ん死す  
三つは狀ハ  
虎の毛  
の長三尺面  
虎凡宋天  
八尺人と食



貔

豹の類  
猛獸なり  
國よ此詩  
經曰獸其貔  
皮陸機曰  
貔ハ虎に似  
或ハ熊に似  
たり



羆

虎の屬  
立秋の月  
獸と名  
柳文曰羆  
ハ虎といふ  
虎ハ羆と  
畏と云ふ  
とあり



赤豹

眷山に  
虎に似て  
赤あり毛  
赤毛詩  
宜王の詩  
赤豹黃  
麗





海豹

その毛の約  
五色の文  
わらわは  
あまのり  
ちりり  
のり  
和名



海牛

その長さ  
丈餘あり  
角は七  
尺あり  
尾の長  
さ八尺あり  
乃一人  
とこれ



犛牛

犛牛の如く  
て角は  
一尺あり  
其皮を  
剥きて  
鼓として  
骨と標  
を百り  
とす



鐵

その状水  
牛の如く  
漆を  
塗ると  
合の如く  
鐵と無  
異なり  
錐の  
如く



水犀

犀に殺す  
山犀三角  
水犀二角  
一角あり  
通天あり  
と云ふ  
今犀は  
角あり  
甲あり



野牛

稭過山に多  
一状野牛の  
角長三尺餘  
馬鞍に  
身の重  
其皮厚く  
漉し制



犛牛

西南夷の長  
毛牛に  
似て四  
及の肘  
毛の長尺餘  
あり尾  
大なり  
車を  
引る



牦牛

狀水牛の如  
体長多力  
解膝尾背  
硬下黒毛  
尾長  
古人は  
毛を  
製す





四熊

狀熊  
白文ある  
顔は七  
脚は  
強  
力人の  
之

害に  
人と

櫻

色  
能人  
持は  
人の  
て健  
或は  
歳  
考



猯

狀  
赤黒  
赤く  
て髪  
川  
神

獼

後  
腰  
の  
握  
白  
握  
捷



野干

狀  
正  
人  
髪  
俗  
而  
の  
いら

獨

形  
て  
と  
ね  
後  
して  
う  
獨



蒙頭

狀  
小  
赤  
赤  
て  
川  
神

猯

狀  
小  
赤  
赤  
て  
川  
神





赤狸

西海より  
周文王乃  
善也  
散宜生を  
と献す  
西伯  
の報  
まわす



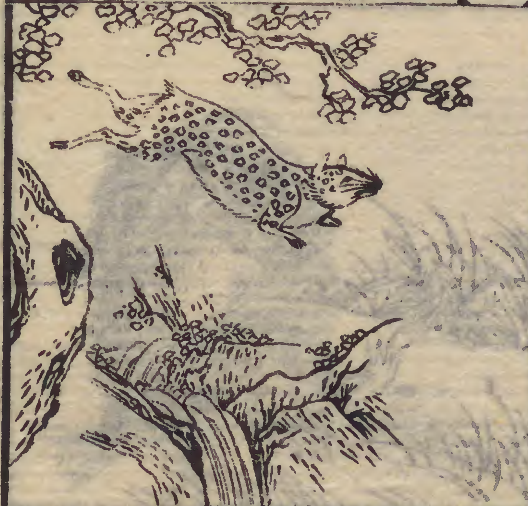
乘黄

西海の外  
氏國あり  
自身髪を  
披り狀狐  
の角あり  
上角あり  
これ乘り  
壽二千歳



風狸

風狸  
風を  
吹く  
狸



玄狸

玄狸  
法新あり  
穆天子  
と得て河  
すつ周礼  
一辨  
死此地氣  
といつ



天狗

天狗  
陰山は  
の状狸  
蛇と合ふ  
其音猫の  
佩  
と禦へ



校

校  
玉山は  
犬の狀  
乃角あり  
犬の角あり  
に目あり  
わつて  
天下



新

新  
胡犬は  
干杯意  
若子皮  
さす



黒狐

黒狐  
北山は  
あり神獸  
王者能  
平と致  
は獸  
四夷  
周の成王  
時





鹿

鹿草の類に  
くまにあら  
虎のりおと  
必せて鹿は  
若ておりじ  
摩よりち  
長、足物の  
はり



茶百机

その状鹿に  
似ておれ  
よく毒草  
とらり  
又二種ハ狀  
鹿よりお  
ほりおれ  
一類ハ食し  
一類ハ食し  
とらり  
矢と森に



挑抜

鹿の似く  
尾長く角  
ひらわり  
これと天祿  
とに兩角  
のりおれ  
辟邪に  
一名挑抜



塵

鹿の似て大  
かり其鹿の  
鹿と辟く  
茜帛を  
中に巻え  
歳くして  
も赤色と  
黠くして  
とらり



比肩獸

西方に獸  
なり、狀  
鹿の似て  
後ハ兎  
一名ハ  
恐り  
癩



隱鼠

大さ平の  
くく飛ハ  
鹿の似く  
御ハ鹿に  
似て蹄を  
踏くと毛は  
灰赤毛細  
お尾上白  
色にわら  
てらり



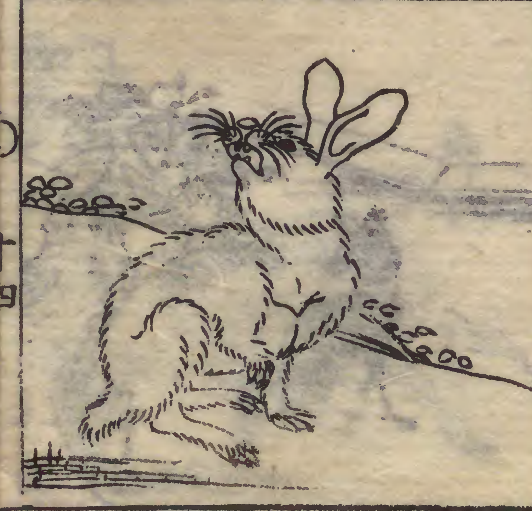
狛兎

狀兎の似  
雄ハ黄、雌  
ハ白、丹石  
銅鉄とく  
ら昔呉王  
の武庫の兵  
器とらり  
是とらり  
後中陶儀  
は狛兎なり  
といふ



碩鼠

飛ハ兎に  
似て眼赤  
く、皮を  
剥くと赤  
く、腹は  
白く、尾  
は黒く、  
和名  
赤らり





<p>犬を類し つゝはし ひきは</p>	<p>目黒 とくは を</p>	<p>鼻牛の如 く</p>	<p>の如く あり</p>	<p>状豹</p>	<p>諸捷 あり</p>	<p>天門山 あり</p>
------------------------------	-------------------------	-------------------	-------------------	-----------	------------------	-------------------



<p>風 大 か</p>	<p>白首自尾 かりし を</p>	<p>状 白首自尾</p>	<p>兼 天下大 有</p>	<p>當庚 欽山中 歌あり 豚乃あり 具鳴と 自らふ この時 を</p>
----------------------	---------------------------	-------------------	------------------------	--



<p>洞 あり</p>	<p>南山日 あり</p>	<p>極狗</p>	<p>豊穣</p>	<p>天馬</p>	<p>馬成山</p>
-----------------	-------------------	-----------	-----------	-----------	------------



<p>木狗</p>	<p>犬</p>	<p>名捕獲</p>	<p>犬</p>	<p>犬</p>
-----------	----------	------------	----------	----------





猛棍

誰明の山  
状類を  
毫赤  
船鼠を



鹿蜀

扭濁の獸  
あり狀馬の  
白首  
虎文あり  
尾赤く多  
松  
人此皮  
新酒子  
孫王



臙踈

獸あり狀  
馬首  
角  
石と  
錯へ



高駼

馬より  
山  
舊中  
産す  
わの  
乃奇  
畜



旄馬

南海の外  
あり狀馬  
の如く  
毛  
あり



果下馬

此馬  
極  
小  
果  
和  
十



山驢

角ハ  
從  
や  
あり



海驢

狀野の如  
秋  
の  
皮  
馬具  
和  
十





羴

四方の野  
羊状豨の如  
其角甚大  
夏の時塵  
其の角上  
生毛これと  
毛とを以て  
羴と名づく



羴羊

羴羊  
羴羊の  
肉を  
故に  
羴羊  
肉



羴羊

羴羊  
羴羊  
羴羊  
羴羊  
羴羊



羴

羴  
羴  
羴  
羴  
羴



葱

葱  
葱  
葱  
葱  
葱



封駝

封駝  
封駝  
封駝  
封駝  
封駝



野

野  
野  
野  
野  
野



山







唐土訓蒙圖彙卷之十四

名下二  
和名と清

魚介蟲

以形よハ魚鱗甲類州虫のこころハ  
のせくろ乃ハ以りれ

辰  
その形地ニ似て大くて角ありて鱗  
の状のこころ鬣ありて後ハ下鱗  
のこころの尻を以て樹又海市といふ

應龍

恭丘山

應龍あり

其やれ

黄帝衣

其の野

二禦

一

り



唐土訓蒙圖彙卷之十四

唐土訓蒙圖彙卷之十四

唐土訓蒙圖彙卷之十四



龍

狀守之  
知一丈五色  
背尾皆鱗  
甲之  
考とらぬ  
夜更に  
鹽龍  
その長尺  
餘わら  
浪盤  
乃盃  
の  
と解  
ふつ  
おとら



水牛

龍の類  
甲は  
て但其角  
三形乳  
陰雨  
務



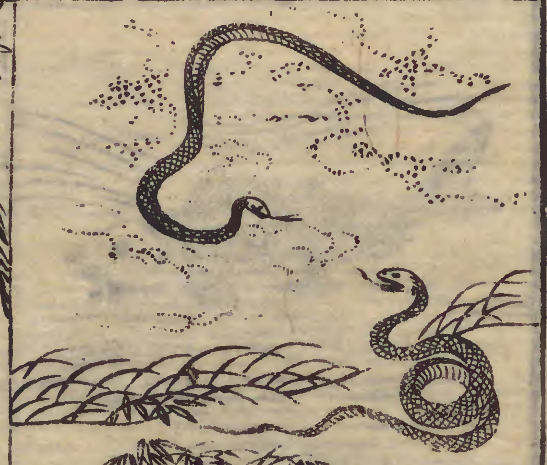
肥鱧

陽山の神  
お身六足  
四翼  
其国大  
早ひ  
陽の  
わ



藤蛇

竹の影  
雄の凡  
多に雌  
風下に  
考  
子日騰蛇遊霧  
飛地冥雲龍  
霞陰與蛇同  
失其所乘故也



斫木蛇

い蛇  
樹上  
人  
又樹  
人の哭  
と  
ち



蚺蛇

その形大  
と鹿山  
斑文  
錦織  
雷加の人  
膽  
名南蛇



青蛇

屏山  
地あり大山  
の高百餘丈  
自野  
と捉  
数





鯢ニギハヤヒ

飛躍し  
似くは白  
くは黒  
トク  
からがし  
白湖



石斑魚イシノボリ

状白  
虎の  
五月  
交此  
水向  
人の  
園



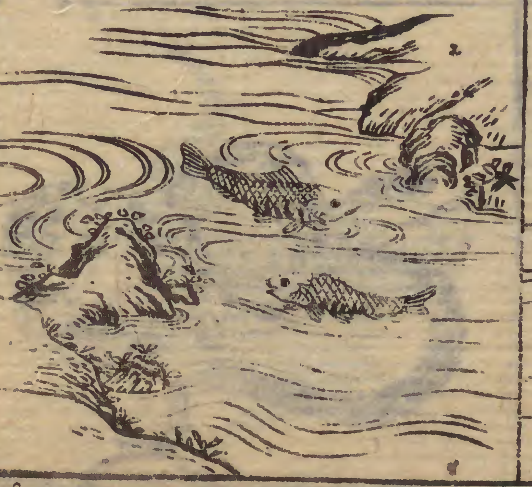
石鯿魚イシノボリ

溪洞の中  
生は長  
形は丸  
裏は下  
わし  
とらて合  
一名山  
山平人



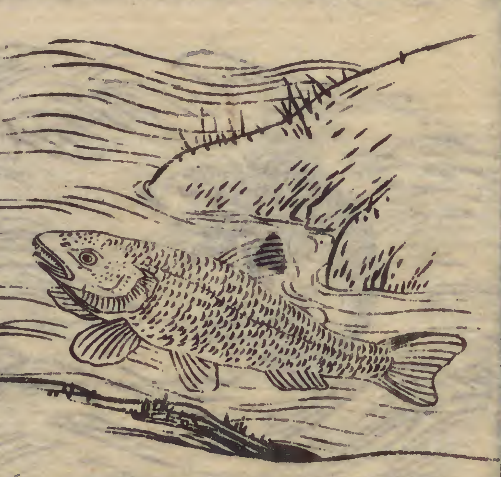
嘉加魚カカ

鯿  
美  
魚  
必  
賦



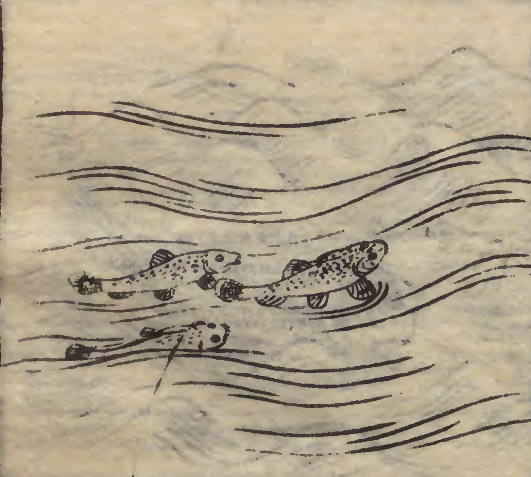
鱒魚マス

状  
大赤尾  
仲の  
の



鱒魚マス

その  
小魚  
或の  
と



鮎魚アユ

状鮎魚の  
細鮎魚の  
下  
を  
一名  
東



鱒魚マス

其  
大  
白  
入  
これ

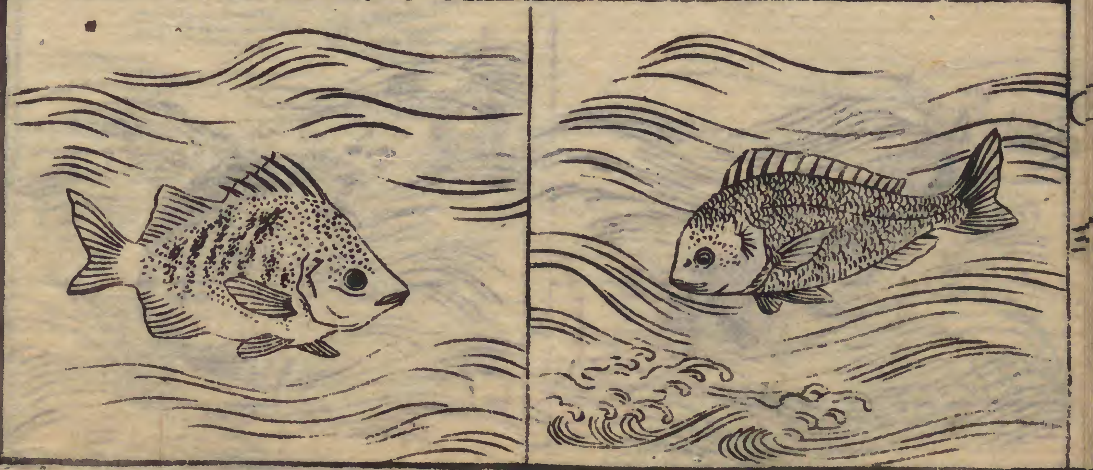




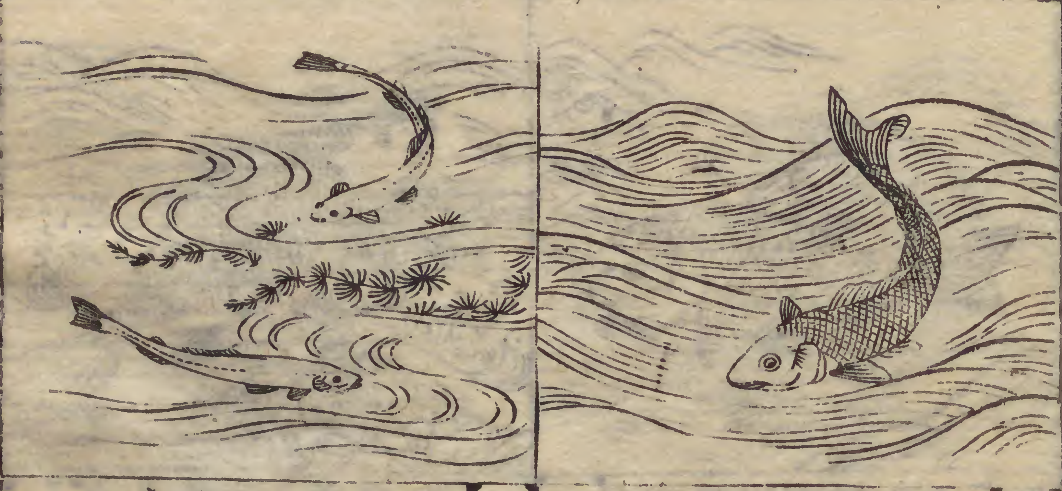
方頭魚  
 大なるひ  
 さいの骨  
 九に岐を  
 和名あま  
 さい  
 金線魚  
 魚れしく  
 て細長く  
 頬のここ  
 しく流る  
 りる合線  
 るて流る  
 撥刺の時  
 糸とよま



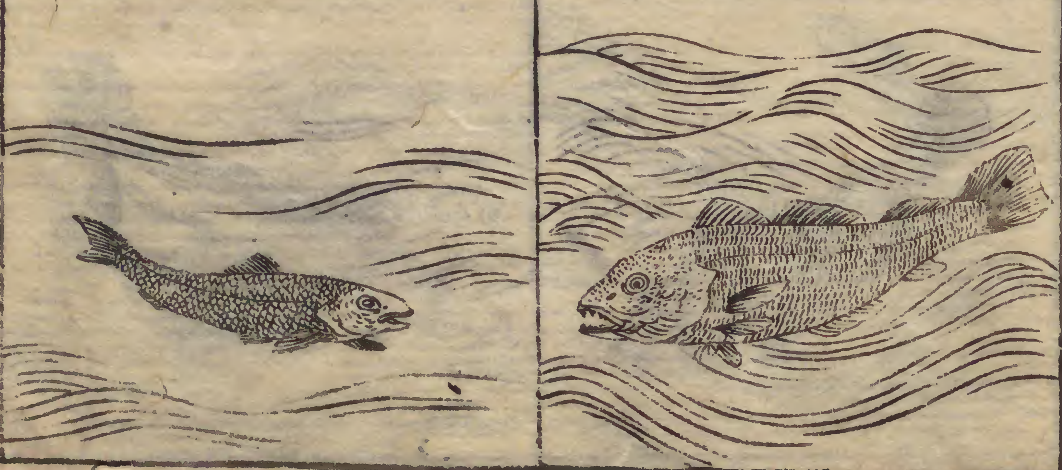
緋魚  
 状ハ似  
 魚のしく  
 長入ふす  
 しくは後  
 紅紫の敷  
 下わは口  
 目大ふて  
 と朱の  
 火焼鱈  
 尾はしく  
 骨隆く  
 赤く鱗を  
 尾連之翼  
 鱗幅のり  
 尾質赤  
 と網垂る



肋魚  
 鯛魚に似  
 骨がくち  
 がそ  
 冬空より  
 降りて雪  
 との雪  
 鉄魚と名  
 づく味  
 佳なり  
 玉竹魚  
 身圓  
 筋のま  
 微玉あり  
 茎が細く  
 時よやく  
 肥し



大口魚  
 その状鳥  
 類魚に似  
 色淡ま  
 して大々  
 細鱗あり  
 け魚小海  
 脯と名  
 て佳し  
 竹魚  
 状ハ魚  
 のめくは  
 骨刺は  
 色竹の  
 ときとの  
 志





鯽魚

狀如  
小魚  
細  
腹肥  
一名連魚



鱸魚

狀如  
似  
大  
骨  
臭



鯽魚

狀如  
似  
大  
骨  
臭  
一名北斗



黑頭魚

狀如  
似  
大  
骨  
臭  
一名北斗



鞋底魚

狀如  
又  
細  
色  
斤  
目



鮎魚

狀如  
尾  
肉  
或  
名



華胛魚

狀如  
大  
盤  
吳  
而  
形



鱧魚

狀如  
尾  
名



魚類圖考卷之十四

四



丹魚 ニシキ

飛龍の  
岐の尾  
色丹の如  
尾の隆  
金をり  
鉄魚の状  
同く  
色丹



鯽魚 ニシキ

その状鯽  
似て小  
三と奔  
六五二後  
一より早  
形のと  
改考魚  
鯽魚あり



鯽魚 ニシキ

飛龍の  
肉鯽  
細は  
文あり  
小魚  
河と水  
わき子  
の



彈塗魚 ニシキ

一名蘭明  
形小鯽  
似て鯽  
大なり者  
長三五寸  
瀬浪て千  
百群とか  
して



牛魚 ニシキ

状ハ鯽  
骨  
切北月  
斑文あり  
腹の下  
牛と似  
といて名  
鯽の属



海鱈 ニシキ

その  
龍乃如  
鱈あり  
足多  
毒あり  
和云ひ  
かいら



鮫魚 ニシキ

飛龍  
似く色  
鼻  
口頷の下  
よめい  
粘り  
脊肉  
鱈あり



龍魚 ニシキ

状ハ龍  
骨多  
骨  
その味  
佳なり  
明海  
し

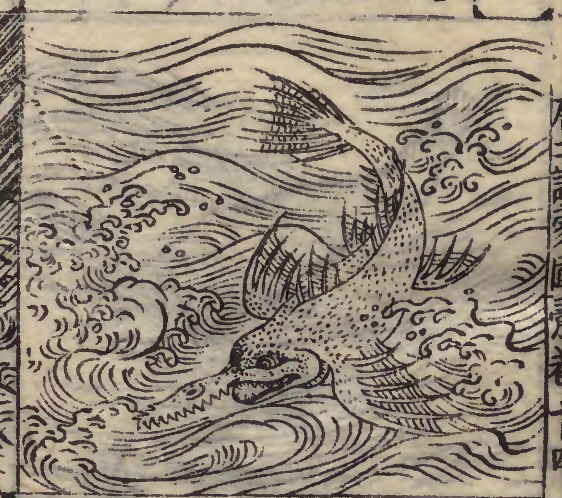


魚類図説卷之十四



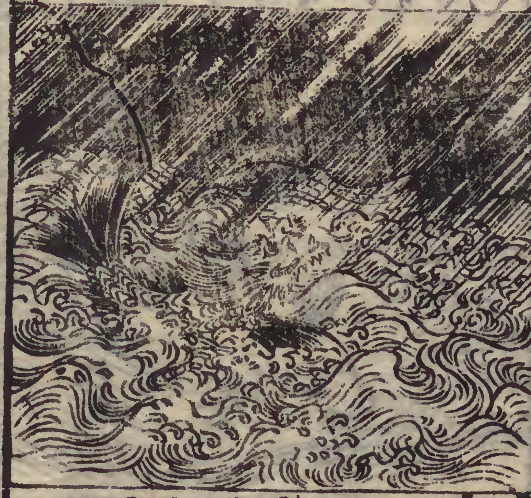
胡龜

そのまゝ  
うへに背  
上へ河を  
大なるもの  
長て文脈  
小なるもの  
三つ入る  
鱗の



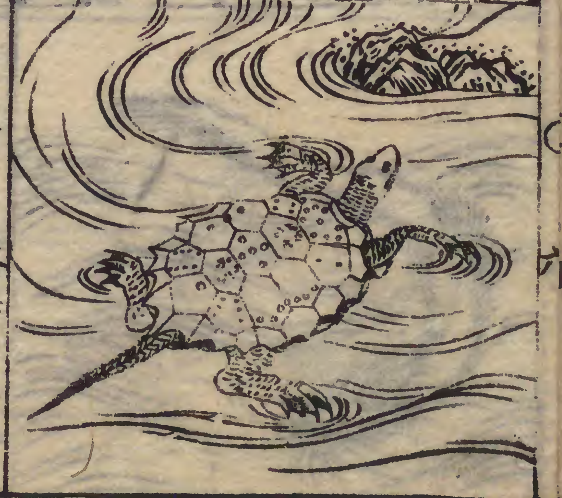
鳩尾

狀ハ龍  
浪と激  
内なるや  
るの波  
屋上の尾  
儼と作  
火災と感  
かき出尾  
鳩尾



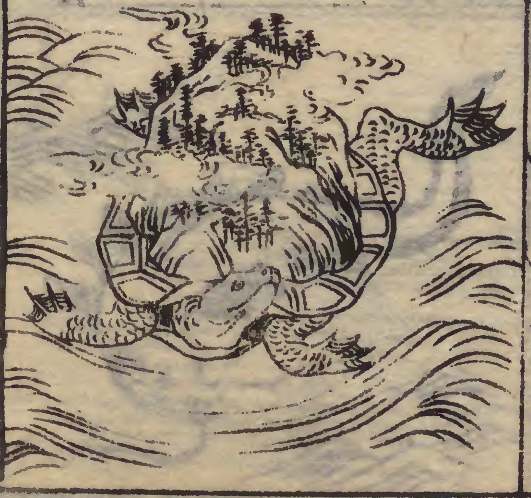
神龜

夏の禹王水  
と浴玉の時  
浴水より  
龜如き  
其甲より  
文ありて字  
畫の如し  
禹王水と  
龍九龍  
の浴死し



教龜

目かり亀  
の東岱輿  
員崎方壺  
瀛州蓬萊  
の五山あり  
巨龜首と  
仰くれば送  
このはら



躑躅

出れり  
珠瑠  
交米あり  
その甲を  
てト  
碌の  
買員と  
玳瑁の雌



玄龜

相陽山北  
怪水河出  
東注水中  
玄龜多し  
其狀鳥乃  
首懸の尾  
散破水の  
卒の



瘡龜

いれ  
石下よし  
なり  
偏頭大背  
老瘡と  
或い病人乃  
外に知る  
掛る



攝龜

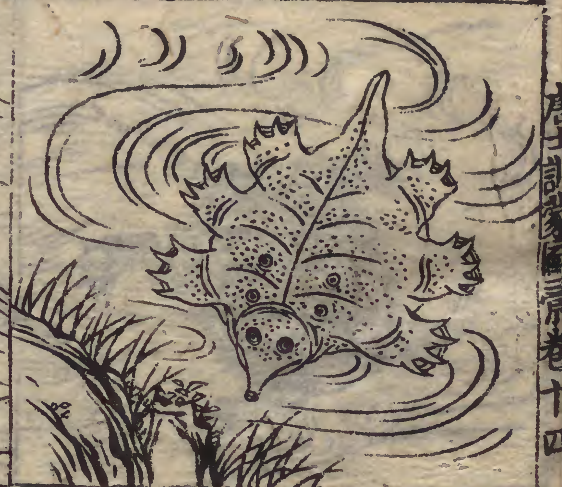
一名鳶龜  
腰小力  
中心核  
能自ら  
圓川ぬ  
蛇と合  
故に甲  
龜より





珠鼈

葛山澤  
仲以多  
其狀六月  
より六月  
あり腹内  
二珠あり  
味甚く  
酸一金  
時氣と避  
へ



電鼈

その形  
のく大  
四人あり  
落ふし  
甲は玉珠  
文線あり  
玳瑁の  
地あり  
玳瑁の  
玳瑁の



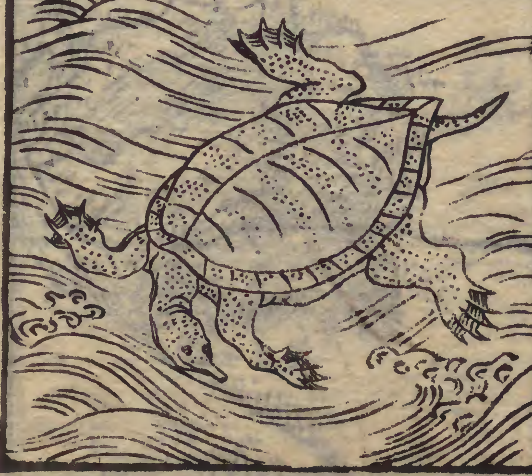
能鼈

くくく  
くくく  
足やう  
り呉興  
郡陽美  
縣君山  
池あり  
の鼈多



元鼈

狀鼈  
似て家犬  
の背は  
臍あり  
鼈と雌  
の卵と  
すうと  
卵の



蟹歩

その形  
あての  
紫一川  
大は一川  
小は一川  
蟹の脚小  
蟹の脚を  
合ふその  
蟹赤



百足蟹

善花園  
百足蟹あり  
その長九尺  
ふして蟹  
口あり  
て腹あり  
鳳喙膠  
草木子



鬼蟹

飛つもの  
あて甲  
人面の状  
あり  
和云  
クニシ  
クニシ



螃

その形  
てて脚  
毛あり  
池田港  
中より  
故に毒あり  
招潮子  
小蟹より  
名とて  
のい  
つ  
わけ



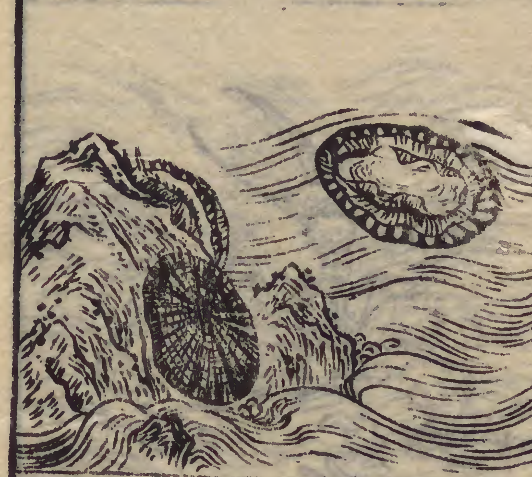


海鏡

此鏡は片の四一斤の白く一斤の群の類也

海鏡

海鏡の石より著て生れ肉の飛騰し似たり味も又膠と



標雞

一名ハ紅鶏子六足ハ一七重ハ翼あり外翅灰黒し一ハ斑無わハ斑ハみさお

標雞

此の鶏ハ龍方ハ龍ハ冠を標雞ト稱スハ似て鳴聲ハ鳥亮クハ一名ハ壺母名ハ亭母



蝻

蝻と同一苗と云ふ淮南子曰法今と挂れと蝻類多しとつり今全穀を以てとらふ

菊虎

その形螢に似たり菊の苗を食て其根より化すといふ小虫也



散虫

飛ハ水龜の如く八足ありて尾有りて節大なりとの人と云ふ毒虫なり

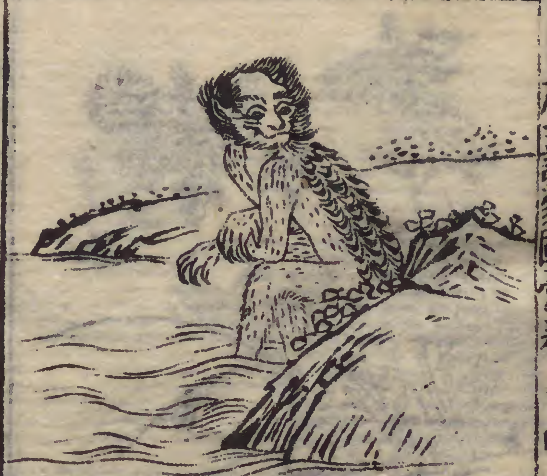
蟻

蟻ハ長三寸其色黒し其角と甲ありて口ハ角ありておとす氣を吐く人と云ふ





水虎水虎 狀三四威の  
小虎の如く  
 甲より露あり  
 西より露あり  
 虎の如く似  
 たり掌の爪  
 と爪よりし  
 勝と出し  
 今より小  
 虎をれと使  
 喚び



謝豹謝豹 此中よりい  
書ししうし  
 秘と抱て死  
 しう人の魂  
 故に抱いて  
 とれたはと  
 面と後のか  
 と思ふら  
 のくし  
 唐の長成  
 の我り

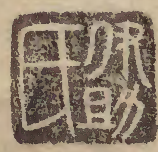


無二祖六法之傳。知不能以通神矣。始者才  
 令所筆抹未定。仲由之水鏡。照君之惟懼  
 之病。親者宜思焉。

浪華 畫者 橘有稅



多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者之  
 所宜潛心也。此書就天地人物圖之說之。裁  
 為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所  
 収載。皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆  
 貽嘲。專庵頃有此選。予與校讎。因附一辭于  
 卷尾云。享保己亥。攝江穗積。以貫伊助甫跋。



享保己亥歲官准

浪華書肆寶文堂上木





享和二年壬戌春求版

御堂筋瓦町南

小刀屋六兵衛

心齋橋通北久太郎町北

河内屋喜兵衛

同 通唐物町南

河内屋太助

同 通北久太郎町南

河内屋吉兵衛

浪華書舗

